

科目名	臨床検査学特殊研究			分野・必選別・単位数	専門科目	必修	12単位
担当教員	◎教授 川杉和夫 教授 西澤和久 教授 後藤一雄 教授 鈴木幸一 教授 望月 眞 教授(兼) 横村浩一 准教授 福田晃子 准教授 松村 充 准教授 咲間妙子 准教授 田嶋明彦 講師 島田智子 講師 関 玲子 講師 黒田雅顕 講師 押鐘浩之						
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	<p>【1年次:医学英語】 英語で書かれた教科書、専門書や論文を利用できるようになるため読解力および作文力を身につける。</p> <p>【2年次以降:特殊研究】 生体の働きをシステムとして理解するため、生理学、画像診断学、情報工学に立脚して生理機能を解析する教育研究を行う。同時に、実際の症例に即した検討に基づき、さまざまな疾患において生体の高次システム機能の評価を非侵襲的かつ有効に実施するための生体機能検査法の開発、改良に関する教育研究を行う。</p>						
授業の到達目標	<p>【1年次:医学英語】 ①英語で書かれた医学論文を正確に理解し、日本語に訳すことができる。 ②PubMedによる検索を効果的に利用できる。</p> <p>【2年次以降:特殊研究】 課題とする研究領域における学識を深め、探求することにより、研究テーマを選択し、研究計画書の作成、データの収集・分析を行い、学術的意義の高い論文を作成できる。</p>						
授業計画	回数	担当者	学習内容・行動目標				
	<p>【医学英語】 (鈴木幸一) 医学論文の読解、翻訳および発表による。</p> <p>【特殊研究】関心のあるテーマについて文献を調査し、どのような方向で研究を進め、まとめるかを考察する。研究の質を高めるため適切な研究試料の入手と方法の応用を十分に検討する。</p> <p>【研究テーマ】 (川杉和夫) 血液凝固・線溶系に関する研究</p> <p>(西澤和久) 計算化学手法およびin vitro実験系を用いて、抗菌ペプチドの生理活性を理論的に予測する方法論の開発に関する研究</p> <p>(後藤一雄) 微量発現遺伝子のmRNA定量法の改良と、動物モデルを使用した感染菌の定量への応用に関する方法論についての研究</p> <p>(鈴木幸一) 感染や組織傷害による自然免疫能活性化と甲状腺自己免疫疾患の関連、甲状腺疾患と生理機能に関わるmicroRNA発現の解析、抗酸菌のマクロファージ内寄生と排除機構、抗酸菌ゲノム非翻訳領域RNA発現と病原性との関連</p> <p>(望月 眞) 組織形態学を中心とした臨床病理的な疾患解析</p> <p>(横村浩一) 院内感染発生時の原因菌同定および薬剤感受性評価法の改良と、遺伝子検査技術の応用に関する研究</p> <p>(福田晃子) 播種性血管内凝固治療中のD-dimer濃度の経時的変化を解析するための、動物モデルの開発についての研究</p> <p>(松村 充) バンコマイシン耐性菌に対する最小発育阻止濃度以下レベルの抗菌薬の効果に関して、分子細胞生物学手法を用いた研究</p> <p>(咲間妙子) 睡眠障害の評価方法についての研究</p> <p>(田嶋明彦) 心不全症例における超音波検査を用いた予後予測法の開発</p> <p>(島田智子) 破骨細胞活動性指標と組織細胞検査法を組み合わせた骨悪性腫瘍の悪性度判定法の確立に関する研究</p> <p>(関 玲子) 消化器系腫瘍のヘテロ接合性の消失と、細胞形態学的に悪性度を規定する遺伝子指標検索という課題の研究</p> <p>(黒田雅顕) 免疫学的手法による、ウイルス性肝炎患者血清中に出現する異常蛋白質の解析に関する研究</p> <p>(押鐘浩之) ミスフォールディング病の原因として重要なタンパク質の高次構造変化と凝集体形成機構の解析</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	研究に関する文献を十分に読解すること。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に180時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時指示する						
参考書	随時指示する						
成績評価の方法および基準	口頭試問80%、レポート20%						
その他履修上の注意事項	1年次に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						